

知的障害教育における学習指導案様式「ワンペーパー指導案」の提案

小山聖佳・上川達也・田淵健・中軽米璃輝*

高橋縁・中村くみ子・阿部大樹・高橋幸・伊藤慎悟・山口美栄子・昆亮仁**, 清水茂幸***

坪谷有也****, 最上一郎・佐藤信*****, 東信之・佐々木全*****

*岩手大学大学院教育学研究科教職実践専攻

岩手大学教育学部附属特別支援学校, *岩手大学教育学部

****岩手県立盛岡みたけ支援学校, *****岩手県教育委員会, *****岩手大学大学院教育学研究科

(平成31年3月4日受理)

1. はじめに

学習指導案は「学習指導・授業の設計図」「授業研究の資料」「授業実践・研究の記録」という側面を持つ¹⁾。「学習指導・授業の設計図」を換言すると「構想と自己検討の機能」である。これは、学習指導案の作成過程において、授業者がその構想を言語化し、自己に対して明示するものであり、授業の計画について自己検討を促す。また、「授業研究の資料」を換言すると「参照と共同検討の機能」である。これは、授業参観や授業研究会において、授業者が、その構想を共同検討者に対して明示し伝達するものであり、授業の評価について共同検討を促す。

このような学習指導案の機能を追求する方策の一つに、学習指導案の様式に関する検討がある。例えば、東・我妻は、病弱・虚弱特別支援学校において近年増加する「心身症等の行動障害」のある児童生徒の実態に即した教育的配慮事項を盛り込むことを意図した様式の提案している²⁾。ここでは、学習指導案の機能である「構想と自己検討の機能」が明示的に追究された。その上で、これに連動する「参照と共同検討の機能」は暗示的に想定されたものと解釈できた。

また、溝邊は、通常の学級における教科別指導において、板書の構想が指導案と一体化あるいは主要となっている「板書型指導案」について、その特徴と工夫点を明らかにした。ここでは、板書内容について図示した上で、関連の発問内容を吹き出しにて表記するなど、授業者の意図が視覚的にも明示され

た作成例や、グラフや図などの資料を貼り出した黒板の実写版を提示するなどの視認性向上に努めた作成例などを紹介している³⁾。ここでは、学習指導案の機能である「構想と自己検討の機能」と「参照と共同検討の機能」の両者が明示的に追求された。

さて、岩手大学教育学部附属特別支援学校(以下、本校と記す)における学習指導案の様式の検討は、研究テーマとする中で副次的に着手された。具体的には、共通の授業づくりの方針「授業づくりの視点」に即した学習指導案を作成しやすい注釈が付された様式が開発され用いられた⁴⁾。ここでは、学習指導案の機能である「構想と自己検討の機能」が明示的に追究された。その上で、これに連動する「参照と共同検討の機能」は暗示的に想定されたものと解釈できた。

しかし、このような学習指導案の様式の追究がなされるものの、本校の公開授業研究会等においては、学習指導案の様式が自省あるいは批判的に検討されることは、ほとんどない。このようなメタ的なテーマは、そもそも授業の評価をテーマとする場において検討事項の外に置かれがちである。また、共同検討者にとっては「様式ありき」として自明的に理解され、暗黙的に受容されているのかもしれない。

このような仮説の上で、本稿では、従来型の様式をリフォームした新様式を提案する。従来型の様式と比較対照するものがあることで、学習指導案の様式の検討が促されることが期待されるためである。

2. 「ワンペーパー指導案」様式の開発

従来型の様式をリフォームする手順として、以下の通り、従来型の様式の概要及び取扱の実態を明らかにし、改善ニーズを仮定し新様式を開発した。

(1) 従来型の様式の概要及び取扱の実態

従来型の様式を用いた学習指導案の代表例は、本校の平成29年度の学校公開研究会における配布資料である。これは本校ホームページにおいても公開されており「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」の学習指導案で、全9本である⁵⁾。

これらは「A4版、片面刷り、ホチキスにて右綴じ、7～10枚（平均8.3枚）」という形態で共同検討者に配布された。また、内容項目として「Ⅰ 単元名」「Ⅱ 授業づくりの視点」「Ⅲ 単元の目標」「Ⅳ 単元計画」「Ⅴ 本時の授業」「Ⅵ 個人の目標及び支援」「Ⅶ 評価」が記された。この中でも本時の授業の詳細を記述した項目（「Ⅴ 本時の授業」における下位項目「本時の展開」「配置図」と「Ⅵ 個人の目標及び支援」）は平均で5.6枚を占めていた。

このような従来型の様式について、一部の共同検討者からの私的な発言に次の5つの内容があった。すなわち、①学習指導案のページ数が多く、読むことに時間がかかる。つまり、授業参観中に捲る手間がかかる。②授業の状況における場の設定や対象児童生徒について、学習指導案の記載内容と照合することに時間がかかる。③「本時の展開」（タイムテーブル）が複数ページに渡るため全体像が見えにくい。④それぞれ別ページに記載の「本時の展開」と「Ⅵ 個人の目標及び支援」とを一元的に把握しにくい。⑤各項目間の記載内容に重複がある。

以上のことから、従来型の様式においては、そのページ数を減じ物理的に取扱いやすくすること、内容を一覧し、かつ関連内容を一元的に把握しやすいようにすることが改善ニーズとして仮定された。無論、必要情報を確実に記載することは前提である。

(2) 「ワンペーパー指導案」の概要

改善ニーズに対応すべく「ワンペーパー指導案」（以下、OP指導案と記す）の様式を開発した。これは「A3版、両面刷り、二つ折りで左開、1枚（実質A4版で換算すると4枚分）」の形態で設計した。

その上で、内容項目を再編し各ページに配置した。この作成例を図1～図3にそれぞれ示した。なお、これらは本校小学部「生活単元学習」の研究授業において実際に用いられたものである。

1ページ目（以下、表紙と記す）には「Ⅰ 単元名」「Ⅱ 授業づくりの視点」「Ⅲ 単元の目標」「Ⅳ 単元計画」を記載した。ただし、分量が収まらない場合は、4ページ目（以下、裏表紙と記す）に続けた。2～3ページ（以下、見開きと記す）には「Ⅴ 本時の授業」「Ⅵ 個人の目標及び支援」「Ⅶ 評価」を一元的に記載した。具体的には、「本時の展開」

（タイムテーブル）が前面に示され、その上下には授業の目標や評価の観点の記述が記された。「本時の展開」

（タイムテーブル）の内部には、配置図がキービジュアルとして配置され、その図中に示された学習者毎に吹き出しが設けられ、「Ⅵ 個人の目標及び支援」の内容が記された。

なお、この見開きにおける記載方法は、岩手大学教育学部附属幼稚園の指導案における「展開案」や保育の記録や評価の際に作成される「環境図記録」⁶⁾に倣い発案したものである。

3. OP指導案様式の検討

(1) OP指導案における特長

OP指導案における特長として次の3つが考えられた。すなわち、①利便な形態である。「A3版、両面刷り、二つ折りで左開、1枚」の形態にしたことで、物理的にも扱いやすく、配布するにあたっては、印刷及び丁合作業の労力が激減された。

②一元的なビジュアルである。これは最大の工夫点でもある見開きでは、そもそも平均5.6枚を占めていた記載内容を2枚に収めるべく、重複内容の整理やレイアウトなどの工夫がなされた。その上で、視認性を担保しつつ、一元的にレイアウトした。また、一元化をめざす過程では、記述内容の重複が解消された。

③アレンジの発展可能性である。例えば、裏表紙では、紙面に余裕があり、独自に資料を追加することも可能である。例えば、道具や製作物等の写真を掲載することができる。これは、前出の図2の通り

小学部3・4年すみれ組「生活単元学習」学習指導書

日 時 平成30年10月23日（月）289時（9:35～10:20）

場 所 すみれ組教室

対 象 小学部3・4年（6名）

指導書 小尾道佳（T）黒川結菜加（T2）H室友恵（T3）

I 単元名「商品大町のバタック絵を作ろう」

II 単元設定の理由

1 児童について
小学部すみれ組は3年生（男子2名、女子1名）、4年生（男子2名、女子1名）の計5名である。すみの組の児童は、絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。

2 単元について
本単元は、11月の「あにわ」で実施する小学部組「商品大町」のバタック絵を作る単元である。毎年実施している「あにわ」を題材にすることで、活動に見通しをもち、進んで取り組む意欲につながる。さらに、ステップ練習から、そのバタック絵を作ることで、みんな一つ一つの大きな作品を作り上げ、達成感を感じられるものと考え、バタック絵作りに取り組むこととした。

3 バタック絵作りでは、児童の好きなことや得意なことを活動の中心に据え、6人が自分の力を発揮して、活動に満足感を感じながら、進んで取り組む意欲を最後まで取り込む意欲につながる。また、児童一人一人がバタックを作り、最終的に大きなバタック絵が完成することで、みんな一つ一つの作品を作り上げる達成感を味わい、教師や友達と一緒に活動する楽しさを感じられるようにする。

4 以上のことから本単元を設定した。

III 単元の目標

1 活動内容が分かる、進んで活動する。

2 自分の力を発揮し、教師や友達と一緒にバタック絵を作り上げる。

IV 指導計画（活動時間7時間）

活動日	活動内容	単元活動内容	時間・回数
第1次	絵を作る	・すみれ組のバタック絵 ・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。	10月17日（水）1時間
第2次	絵を作る	・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。	10月18日（木）1時間 10月19日（金）1時間 10月20日（土）1時間（本時）
第3次	絵を作る	・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。	10月21日（日）1時間 10月22日（月）1時間 10月23日（火）1時間

V 本時の目標

1 本時の目標に当たって
本時は、第2次の3時間目に当たる。
第1次では、単元の導入を行い、「あにわ」の各部分に向けて制作していくことを確認した。最終的にバタック絵の全

図1 表紙の作成例

準備を終わらせることで完成までの大きな準備しをもつことができた。制作では、絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。また、絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。また、絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。

【準備】
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。

【制作】
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。

【完成】
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。

図2 裏表紙の作成例

正 単元目標

1 単元目標に当たって
本時は、第2次の3時間目に当たる。
第1次では、単元の導入を行い、「あにわ」の各部分に向けて制作していくことを確認した。最終的にバタック絵の全

【準備】
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。

【制作】
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。

【完成】
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。
・絵の具やペン、鉛筆や文房具、糊やのり、テープやシールを貼ったりすることが得意である。

図3 見開きの作成例

である。また、本校の授業づくりにおいて開発した評価手順等を示す「評価シート」⁷⁾等、共同検討に資するものを掲載することができる。

さらに、見開きにおけるアレンジを加えた例を図4に示した。図中では、学習者個人が使用する道具や作業場の設定の一部の写真が掲載されている。これは共同検討の焦点を強調した内容であった。このことは、そもそもの学習指導案の機能として期待される「参照と共同検討の機能」に貢献するものと言えた。なお、この内容は本校中学部「作業学習」の研究授業において実際に用いられたものである。

(2) OP指導案における課題

OP指導案における課題は、記載する情報量の統制と視認性の向上が課題である。例えば、表紙では字数が増え、読みにくくなる恐れがある。このことは、見開きでも同様であり、むしろ顕著であった。この例として図5を示した。これらは本校小学部における日常の授業について、実施後に後方視的に書き起こした、いわば授業記録である。ここでは、枠線やレイアウトの審美性が印象的であるが、作成者からは、情報量が多いことの懸念が示された。そもそもこの授業では、授業時間である45分間に3パターンもの場の設定が計画、実施されており、これが図示された結果、紙面の情報量が多くなった。このことから、授業者は授業自体が目まぐるしく、活動を盛り込み過ぎたことが内省したという。

OP指導案に記載する量については、紙幅を増やし増量するよりも、むしろ紙幅の制限内で、記載内容を精選することで、記載する量を調整したい。記載内容を精選することは、活動の精選にもつながり、そもそもの学習指導案の機能として期待される「構想と自己検討の機能」の促進にもなる。当然このことは、連動する「参照と共同検討の機能」にも貢献するだろう。

なお、OP指導案の見開きは、同一内容を一定期間繰り返す場合に適しているといえるかもしれない。つまりは、「遊びの指導」「生活単元学習」「作業学習」のような「教科等を合わせた指導」に適していると考えられる。

(3) 今後の課題

OP指導案は、共同検討者の視点から仮定した改善ニーズに基づいた。換言すれば「参照と共同検討の機能」を第一義的に考えたものである。しかし、当然ながらこれに連動して、授業者にとっての「構想と自己検討の機能」への言及にも至った。

今後の課題として、次の3つを挙げる。すなわち、①OP指導案による「構想と自己検討の機能」「参照と共同検討の機能」の効果を検証すること、②OP指導案の様式における構造や記載方法の洗練、③OP指導案と従来型の様式との比較によって相互の特徴を明確化にし、それぞれの適用の選択範囲を見出すことである。

文献等

- 1) 京都府総合教育センター (2012) : 質の高い学力を育成する学習指導案ハンドブック. <http://www.kyoto-be.ne.jp/ed-center/gakko/pdf/sidoanhandbook.pdf> (2018. 12. 24. 閲覧)
- 2) 東信之・我妻則明 (2015) : 病弱教育の授業改善に向けて有効な指導案様式の提案. 岩手大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要, 14, 469-474.
- 3) 溝邊和成 (2018) : 小中学校学習指導案の表記に関する工夫—板書型学習指導案に着目して—. 兵庫教育大学研究紀要, 53, 125-133.
- 4) 田村典子・山口美栄子・星野英樹・中村くみ子・伊藤嘉亮・阿部大樹・清水茂幸 (2018) : 児童一人一人が今、主体的に活動できる授業づくり, 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 5, 4-9.
- 5) 岩手大学教育学部附属特別支援学校 (2017) : 平成 28-29 年度研究 学校公開研究会 資料〈学習指導案〉. <http://www.edu.iwate-u.ac.jp/futoku/kennkyuu-koukai-siryuu.html> (2018. 12. 24. 閲覧)
- 6) 下山恵・高橋文子・北條早織・千葉紅子・渡邊奈穂子・石川幸子・小川恵美子・阿部裕之・佐々木全 (2017) : 幼児教育における今日的課題と豊かな遊びを育む保育実践—岩手大学教育学部附属幼稚園における園内研究から—, 岩手大学大学院教育学研究科研究年報, 1, 55-67.
- 7) 前掲論文4)

3 本時の展開

時間	学習活動	支援上の留意点
10:30～	(1) 準備 ○今日の作業内容、目標を確認し、身支度をする。	○生徒に応じて「がんばりカード」への記入や身支度を見守ったり、手伝ったりする。
10:35～	(2) 作業1 【石けん作り】 ○工程ごとに分かれて取り組む。	○教師は3つの工程に1人ずつ分かれ、それぞれの工程で生徒と共に作業を行う。
11:10～	(3) 作業2 【攪拌】 ○バケツに入っている石けんにハープ入りの熱湯を足し、攪拌棒を回して20分間攪拌する。	○安全に行えるように、生徒の動きに留意する。 ○みんなで同じ活動を共にしていることを感じられるように、全員が向かい合えるような弓型の配置にする。 ○それぞれの力に合わせた粘性の石けんが入ったバケツを準備する。

Bさん	道具置き場	ホワイトボード	白板	製品置き場	石けん置き場	Cさん	Fさん	
<p>①『現在の活動の様子』</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業の手順が徐々に分かってきて、自信を持って取り組んでいる姿が見られる。 石けんを注入したボトルと空のボトルを交換する際に交換が間に合わずうとから石けんがこぼれてしまうことがあるが教師の声掛けで気付くことが出来ている。 	<p>②『目標』</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順に沿って容器詰めをする。 	<p>③『支援上の留意点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて手順が分かるように声掛けをする。 ○容器詰め集中できるように、空容器や石けんを取りやすい位置に配置する。 	<p>①『現在の活動の様子』</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分から作業に取り組み、集中して作業をする姿が見られる。 近くで作業をしているCさんを気に掛け、ボトルを交換を促すような声かけも行っている。 日によって作業量がまばらで、補充の本数が多い日があったり少ない日があったりする。 	<p>②『目標』</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定したペースで自分の作業に取り組み。 	<p>③『支援上の留意点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○スムーズに石けんを補充できるように、予め石けんを温めて粘性を緩くしておく。 ○見通しを持って作業に取り組めるように目標本数の確認を行う。 ○必要に応じて声かけを行う。 	<p>①『現在の活動の様子』</p> <ul style="list-style-type: none"> 前单元からラベル貼りの作業に取り組み始め、作業内容や要領をつかんできている。 ラベルを貼ることの出来る個数が増えてきて振り返りでも充実感を感じているような話をしていく。 	<p>②『目標』</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順に沿って自分で作業を進める。 	<p>③『支援上の留意点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自信をもって一人で作業を進められるように、道具の置き位置や作業の留意点を作業前に確認しておく。

Aさん	攪拌作業時の配置	Eさん	Dさん					
<p>①『現在の活動の様子』</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業の手順が分かってきて、集中して時間いっぱい活動に取り組むことが出来てきている。 自分自身のその日の活動を振り返って、自分が石けんを詰めた容器の個数を確認しながら作業に取り組んでいる。 	<p>②『目標』</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順通り、道具を自分で使って容器詰めに取り組む。 	<p>③『支援上の留意点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○容器詰め集中できるように、空容器や石けんを取りやすい位置に配置する。 ○自信をもって取り組めるように、こまめに声掛けをする。 	<p>①『現在の活動の様子』</p> <ul style="list-style-type: none"> 前单元から素作りの作業に取り組み始め徐々に手順が分かってきて自分で取り組むことが出来るようになってきた。 	<p>②『目標』</p> <ul style="list-style-type: none"> 手順表を見ながら一人で素作りに取り組む。 	<p>③『支援上の留意点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○正確に計量できるように、計量の道具や場所に印を付ける。 ○材料の計量と混入時の安全には特に留意し、教師もそばで活動し、確認と必要に応じて補助を行う。 	<p>①『現在の活動の様子』</p> <ul style="list-style-type: none"> 前单元まで容器詰め作業をしており本单元から素作りの作業に取り組んでいる。 	<p>②『目標』</p> <ul style="list-style-type: none"> 素作りの手順を覚えて活動に取り組む。 	<p>③『支援上の留意点』</p> <ul style="list-style-type: none"> ○手順を覚えられようようにホワイトボードに手順を示す。 ○正確に計量できるように、計量の道具や場所に印を付ける。 ○材料の計量と混入時の安全には特に留意し、教師もそばで活動し、確認と必要に応じて補助を行う。

11:50～	(3) 終わりの会 ○今日の成果を報告し合う。	○それぞれの成果を確認する際には、教師も生徒と共に称賞の声掛けや拍手を行う。
<p>○目標数に近づいていることが分かるように表に印を付けて示す。</p> <p>○カレンダーに丸印を記入する。 ○次時の活動を確認する。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<p>○T1は、明日の活動に見通しと期待がもてるように、販売会までの日数等を知らせる。</p>	

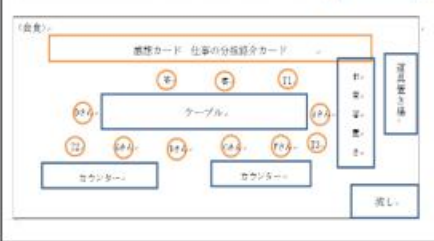
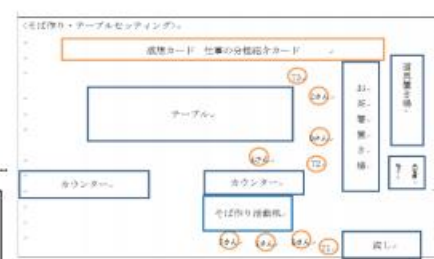
図4 見開きの作成例 (写真を取り入れた例)

3 本時の展開

学習活動		氏名等	本時について	
		現在の活動の様子	本時の目標	本時の支援(教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他)
1	挨拶(13:20~13:25)			
2	活動の方向の確認 ○前時の振り返りをする	<ul style="list-style-type: none"> ・そばを食べることを楽しめようという活動に取り組んでいる ・ビジュアルカードを見て、一緒に食べたい食べ物を紙に書く食行動がはじまっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師の声掛けがうまくいっている ・おしぼりの準備や食器洗いの自分の仕事に参入している ・友達と一緒に取り組む機会がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・スムーズに準備をスタートできるように教師と一緒に椅子を動かせるように取り組む ・おしぼりを置ける場所がわかるように目印のシールを貼っておく ・様子を見ながら必要に応じて声掛けをする
3	○活動の分類や流れと本時で何をなすをお客さんを確認する			
3	おそば屋さんの準備(13:25~13:35) くぼちゃん Bさん ○そばを水にくらせ、ほくしで皿に盛り付ける。 Fさん ○お盆の端にそばのしるしを貼る。 Eさん ○めんつゆを水で薄め器に入れる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の仕事の内容が分かっていて、教師の声掛けを受けながら活動している ・後片付けでは、友達と一緒に取り組む姿が見られる ・友達がどんな活動をしているかを気にして様子を見ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に準備をし、友達の活動を受けながら自分の役割に取り組んでいる 	<ul style="list-style-type: none"> ・お客さん用紙が、自分たち用のか混ざらないように、お客さんのそばを配るときにお客さんのそばに声を掛ける ・自分が参入して活動している機会を捉え、丁寧に待たせる ・次の活動に取り組む様子が見えたら「次は○○だね」等の声掛けをする

「テーブルのセティング」		本席について	
Aさん	○人数分の椅子をテーブルに設置する。	氏名等	現在の活動の様子
○席うらしたおしほり座しと各活動場所に置く。	○お茶を持ってカウンターの前に立ち、出上来がたばお茶をテーブルに運ぶ。	本時の目標	本時の支援(教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他)
Cさん	○布巾でテーブルを拭く。	・みんなと一緒にそばを作る	・お客さんの分と自分たちの分のそばは区別がよいため袋に写真貼っておく。また、食器の色や模様も異なるものを用意する。
○シートとメニューをテーブルに置く。	○人数分のお茶を用意し、それぞれ座席の席前に置く。	・自分の分の役割り通りに取っ組み合う	・そばを皿にかけやすいようにトングを使用する。
Dさん	○人数分の箸を指定の場所に置き、入り口の机を整理にする。	・役割り分組を決めることに、選択肢の写真をじっくりと見て決めていく	・そばがゆききでは、どうだミンでそば粉にコーニーミルから容器に移すのがかたがたうに正確でないと教師が教数を数えたり、数えたりしながらそばをききする。
		・そばをききする活動では、業者でききおはしている	・ハンドルの感触がききなくてまた、きき振つてききの実をききするように声かけする。
4 会食(13:35~13:45)			

氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の支援・教材教具、場の設定、教師の働きかけ、その他
<p>○お香さんと一緒にしては食べる。</p> <p>○お香さんを見送った後、いたいた氏をみながらで終われる。</p> <p>5 月付いたと次時の準備 (13:45～14:00)</p> <p>く付いた Aさん</p> <p>○お香さんの分の食器を流しに運び、食器を洗う。</p> <p>○全員分の椅子を並び替え、テーブルを置く。</p> <p>○次時の準備</p> <p>○自分が使った食器を流しに運び、次時の準備を始める。</p> <p>Dさん、Eさん</p> <p>○そばをのびて切る。</p> <p>DEさん</p> <p>○Fさんがいれたそばの粉をふるるにかけろ。</p> <p>DEさん、Fさん</p> <p>○そばの実を洗う。</p>	<p>・やはりい役割や食べに来てほしいを考えて、複数の写真の写真を差し出して選んだ。</p> <p>・カレンダーを指して聴奏会のおばあちゃんがある日を指読する等、おばあちゃんに食べもらうことが分かり、それを中まらに活動している。</p> <p>・友達の友達の書を書く準備する、そばの粉をふるに掛ける等の自分の役割に慣れながら、教師の声掛けを受けるながら取り組む。</p> <p>・特定の友達の行動や特定の音が苦手な活動に集中できないことがあるが、場を変える等することで、気持ちを切り替えて活動している。</p>	<p>・お香さんに食べもらうことを楽しみに、進んで活動に取り組む。</p>	<p>・見通しをもって活動できるように、教師はホワイトボードで携帯し、活動の流れを書き添えたり、続いた活動の花火を付たりする。</p> <p>・自信をもって活動できるように、適々の準備には給食当番等を取り組んでいる活動を取り入れ、その物があるに掛ける活動には児童の得意な動きを取り入れるようにする。</p> <p>・継続的に活動に取り組むことができるように、BGMを流して楽しい雰囲気をつくり出し、活動を促す声援の掛けをしながら、また、複数の活動を実行する。</p> <p>・気持ちが不安定になったときは、イラストや文字を書いたり、指をそばを洗ってもらったり、次の活動は何か等を確認したりする。</p>



氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の資料・教材・教具・具、場の設定、教師の働きかけ、その他
C M u n i t y	<ul style="list-style-type: none"> -そけりでの活動全部に置き、興味をもって取り組んでいる。 -役割を分目を決めるときは、仕事の内容を写真で確認しながら、じつと選んでいる子ども。 -おもては座にまわって欲しい先生を選び、楽しんでいる様子が見られる。 -準備をしながら状況や人数を自分で確認し、必要なお茶を事前に用意したり、活動が選んでいる友達を平伝でつづけることもある。 -その日の気分によって活動量にむかえる。 	<ul style="list-style-type: none"> -そは作りにおける自分の役割に丁寧に正確に取り組む。 -友達の活動の様子や場の状況を確認して活動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> -活動の手順が分かるように、テーブルを拭き布巾、シート、お茶こぼしのコースをそれぞれ用意し、必要なものを載せて番号を付けておく。 -混雑しないようテーブルに載せきれないものを事前に教室外に置く場所を事前に決めておく。 -そをのめしたのち、切ったあすいづに、机の高さを調整する。 -おもてなしへの意欲につながるように、お香さんや友達とお茶を分けてやり取りしている機会を自らつづける事に特化する。

氏名等	現在の活動の様子	本研について	
		本時の目標	本時の支援（教材教具、環境の設定、教師の働きかけ、その他）
田中 さん	<ul style="list-style-type: none"> ・そば打ちの活動に興味と意欲をもって取り組んでいる。 ・来てくださるお客さんの名前を覚えて、お客さんが来ることを楽しみながら準備や練習をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしをすることを楽しくする。 ・自分の役割に丁度よく取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもてなしの活動を始めるように、導入時にお客さんの名前を確認したり、活動中「今日○○先生に食べてもらう○○の声响けをしようね」
	<ul style="list-style-type: none"> ・めんつゆを作る活動では、目盛るなぞやテープをよんで作れるようになってきている。また、作っためんつゆも全員が分量に合わせて分けたり入れている。 ・後片付けでは、自分の仕事が終わると進んで友達の手伝いをしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と手を掛けたり教師とのやり取りをしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・めんつゆと水の分量が分かるように、計量カップと目盛りテープを活用している。 ・片手で持つように、めんつゆは両手でストロークしているのを促す。 ・そばを切る時には意識できるようにそばを置（シート）に当てておく。 ・友達とやり取りしながら活動するように環境を設定する。

氏名等	現在の活動の様子	本時について	
		本時の目標	本時の支援(教材・教具、場の設定、教師の働きかけ、その他)
Fさん(6年男)	<ul style="list-style-type: none"> ・そばを食えることを楽しみにしている。 ・三角巾とマスクを着けることに抵抗があるが、練習の返し、取り組むことで少しずつ慣れてきている。 ・切ったあるのりを指でつまんでそばの上に掛けることが分かる活動。 ・粉をひく活動では、教師の声掛けを受けて続けてハンドルを回すことができるようになってきた。 ・お箸と箸と一緒に食べるのが分かり、食会の時間を共有している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分からのりを指つたりの粉をひいたりの活動に取り組む。 ・教師と仕事の流れを確信しながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・のりを握ける活動に落ち着いて取り組めるように椅子に座って活動する。 ・のりを指でつまみやすいように、幅の広い(製氷皿)にのりをのりを入れておく。 ・活動をサポートしてくれる友達に近くて取り組めるように席の配置をする。 ・そば粉むきに落ち着いて取り組めるように椅子に座り、滑り止めの活用しながら、教師と一緒に活動する。 ・ハンドルを回し、絡めるタイミングが分かるように、教師に教を教えたり、歌を歌えたりしながら取り組めるようにする。 ・達成感を感ぜられるように、Fさんからできたという報告があった際には教師は笑顔でハイタッチに応じ、できていることを伝える。 ・自分から活動に取り組むような様子が見られた際には、丁寧に称賛する。

実践上の留意点

- 身支度は挨拶の前に行う。
- おやけ屋さんにお客さんを迎えることへの意欲が高まるように、前日までに3人のお客さんを迎えたことやしたい感想を記録する。
- 通って活動できるように、これまでの活動の分類やおもてなしの手順をシカゴカード等で確認する。
- 全員で協力して取組む、協力させようという一体感を共有できるように一言一言声を出して活動に参加する。
- おやけ屋さんの雰囲気を出して楽しさ・COGを伝える。
- おそけや一方の協力の方で行う中で行うよう活動場所を狭く分け、せに配置する。
- すでに活動が始められようにあらかじめ数分前までにおきこめを準備しておく。
- 手早くおやけできるようにそばをぎるに入れてから水にくぐらせる。
- その上に乗れるの量が分かるように、一人分ずつの分量に分けて容器に入れておく。
- めづり汁は計量カップで量ながら作る。

- 活動しやすいように、必要な用具等はテーブルのそばに配置しておく。
- 教室内に物陰を確保しながら設置する。
- 自分で確認しながら活動できるようにおしぼりを置く場所に目印を付ける。
- そばを置く場所が分かるようにテーブルにシートを置く。
- 活動の順番が分かるように、それぞれの活動で使用する道具をケースに入れ、番号を付けておく。
- 上座にきてできるだけ手を丁寧に称賛する。
- 音楽かけ場が滑り落ちないようシールを貼っておく。
- 置く位置が分かるようにシートを置く。
- 明確にしてることをたくさん称賛する。

○そばの出来栄などを話しながらお友達やお客さんや教師に楽しむ。

<p>○感染症対策として必ず行う。</p> <p>○お昼用紙はくべんをもって用意しておき、お客さんが食べ終わった後に渡して返してもらえるようにする。</p> <p>○書いていただいた感想を読み上げ、黒板に掲示して全員で共有する。</p> <p>○活動内容を全員で確認してから歌組む。</p> <p>○お昼を使って通うことを伝え、食器の重ね方など教師が声掛けをしながら一緒に取り組む。</p> <p>○早く終わった方には食器を拭くことを伝える。</p>	
<p>○強い笑い声はよいことなのでそれをあげるように準備しておく。</p> <p>○教師が隣で一緒に活動し、厳格切う声掛けをしたと理解されていることを特許したいようにする。</p> <p>○その日の終わりにおしゃべりをする、ふるいはケースに入れて使用する。</p> <p>○そばの実をききやすいように、コーヒールを用い、押さえるように座って活動する。</p> <p>○コーヒールの下に滑り止めを敷いておく。</p>	
<p>○全員で協力しながら活動していることが分かるように、教師は活動中の児童の良かたをうたえて工夫していることを紹介する。</p> <p>○本時の達成感と次時への意欲につながるよう、ピクチャレシダーにシールを貼る。</p> <p>○挨拶がけは必ずうたえておしゃべりしたい気持ちを伝える。</p>	

図5 見開きの作成例 (複数の配置図を示した例)